

# 赤い屋根まごころ基金

ご厚志を、未来へつなげる



Message from Chairman

## 理事長より皆さまへ

公益財団法人  
大原記念倉敷中央医療機構

理事長 浜野 潤

平素は当法人の活動にご理解・ご協力をいただき、まことにありがとうございます。

倉敷中央病院は昨年6月2日に、創立100周年の記念日を迎えました。当法人の長い歴史に培われた伝統を生かしつつ、必要な改革を加えていく「伝統と革新」が必要です。常に創業の理念に戻りつつ、生起してくる諸課題に果敢に取り組むことで、地域の皆さまの健康に寄与していく所存です。

「赤い屋根まごころ基金」は、皆さま方と共に当法人をより良いものにしていきたい、皆さま方と共に歩み、進化する医療機関でありたいという思いで始めた基金でございます。この活動は、当法人が進める社会貢献をより実り多いものとするために大きな力となっています。

基金は専門の委員会でご適切に管理・運営し、快適な病院環境整備のためなどに使わせていただいています。2023 年度は看護師向け学習動画集「Nursing Skills」の年度契約の援助のほか、外来患者図書室「医療情報の庭」の書籍更新などに活用させていただきました。

今後とも、皆さま方の基金へのお気持ちを十分に考慮して使わせていただきたいと思います。ご支援・ご賛同のほどよろしくお願い申し上げます。



What we do

## 当法人のトピックス

2023年4月～2024年3月



### G7労働雇用大臣会合メンバーが 当院を視察

2023年4月22日

会合のテーマである「労働雇用」に即し、障害のある職員が働く「チャレンジステーション」や抗がん剤の調製ロボット「アポテカ」などを見学されました。



当院東側止水壁 救急車入り口側に、ご寄付者さまのお名前を記したプレートを出しました（希望者のみ）

### クラウドファンディングで 止水壁建設に向けた寄付を募る

2023年6月2日～8月31日

668 名の方から、温かいメッセージとともに総額32,085,000円のご支援いただきました。



### 令和6年能登半島地震被災地で 多職種の医療スタッフが支援活動

2024年1月11日-18日、1月31日～2月6日

各団体からの支援部隊派遣要請を受け、1月12日のDMAT第1隊の活動開始を皮切りに、DMAT第2隊をはじめとして多職種の医療スタッフが被災地に赴き、支援活動に取り組みました。



### 創立100周年の記念式典開催

2023年6月2日

100 周年創立記念日の6月2日、大原記念ホールで記念式典を開催しました。会場には 200 人を超える職員が集い、リモート中継で院内の会議室にも配信しました。



### 京都大学iPS細胞研究所と 共催でシンポジウム開催

2023年9月3日

「最先端科学を社会実装する一倉敷で考える医療の未来」をテーマに創立 100 周年記念事業として開催。県内外から約 1,300 人の方々が来場されました。



### 創立100周年フィナーレイベント キャンドルナイト開催

2024年3月27日

会場には1,200 個のキャンドルを配置。職員、関係者が 100 年先に向けたメッセージを書き込んだ紙コップにキャンドルを入れ、多くの想いが一つのかたちになりました。

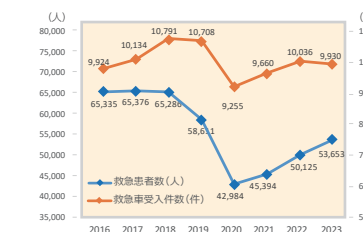
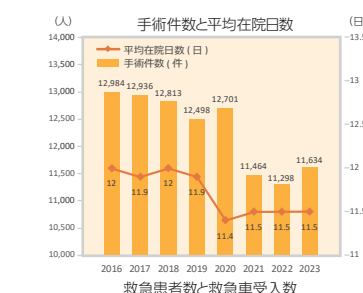


results

## 診療実績

一倉敷中央病院 2023年度

- 入院延患者数 349,219人  
(1日平均 954人)
- 外来延患者数 626,442人  
(1日平均 2,516人)



## ご厚志をかたちに －2023年度の基金活用実績より

### 看護師向けの手順動画集 年度契約の援助

看護師向けの動画集「Nursing Skills」の 2024 年度契約について、赤い屋根まごころ基金から援助しました。バイタルサインの確認や検体採取方法などの手技解説、臨床検査のデータの読み方や身体診察の具体的な方法と技術における実践など 200 件以上の講義動画を視聴できます。BLS (1 次救命処置) 解説など、看護師以外の職種の学習にも広く活用しています。



職員の教育研修への支援

## 医療情報の庭の書籍を更新、新しい情報を患者さんへ

外来患者さんがご自身の健康管理やご病気についてご理解を深めていただく場所として運用してきた「医療情報の庭」。新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、2021 年 5 月より、長らく外来患者さん向け待合室として使用されてきました。新型コロナウイルス感染症 5 類移行をうけて、2023 年 4 月よりが本来の図書室としての利用を再開しましたが、閉室にしていた 2 年間に蔵書も古くなっておりました。

「患者さんに意義のある医療用図書室として、利用していただきたい」と考え、2023 年度は 128 冊を 購入しました。学会が発行する患者さん向けのガイドラインは 2022 年度版・2023 年度版と発注時の最新ものを選定し、感染症に関する解説本も充実させました。既存の書籍の新版も多く購入して入れ替えています。

ご来院の際は、お気軽にお立ち寄りください。



2021年4月30日撮影  
約2年にわたり図書室の機能を停止



患者さんのための活用

## 子どもたちが安心できる小児科処置室に

小児科病棟には乳幼児の患児さんも多く、彼らにとって処置室は「何が起きるかわからない」怖いお部屋です。「良くなるために、検査や治療を頑張れる環境にしたい」という願いから購入に至ったのが、このポータブル DVD プレーヤーです。2023 年度、2 台を購入しました。お気に入りのキャラクターが画面に登場すると、非日常の処置室のなかに少しだけ日常が生まれます。



患者さんのための活用

## 「安全」と「安心」を兼ね備えた椅子で 親子の絆を深めるひとときを

NICU では保育器から出られる赤ちゃんをご家族のカンガルーケアを行っています。ファミリールームに設置した専用のイスは重くて移動できません。赤ちゃんが医療機器から離れられないときは代用のイスを使用しますが、安定が悪く、赤ちゃんを抱いたご家族がよろめくこともありました。ご家族が赤ちゃんとうったり過ごせるように、とカンガルーケア用に新たな椅子を購入しました。重く安定した大きな椅子で、キャスターが付いており移動も可能。初めて我が子と触れあうご家族の不安も包み込むような椅子で、安心してお過ごしいただけます。緊迫した集中治療室の空間のなかでも、ゆったりと親子でくつろいでおられます。



患者さんのための活用

# 赤い屋根まごころ基金会計報告 2023年度(2023年4月～2024年3月)

(単位：円)  
【前年度繰越金】 5,984,758  
(遺贈寄付金 10,000,000)  
【収入】 寄付金 87件 7,168,601

※遺贈寄付金1千万円は、使途として臨床研究を強く希望されたため、ご希望に沿って別管理しています。

|                          |           |
|--------------------------|-----------|
| 【支出】                     |           |
| ボランティア活動費                | 644,207   |
| 市民公開イベント費                | 72,320    |
| 患者会                      | 6,438     |
| 図書費                      | 221,241   |
| (外来待合、医療情報の庭、入院患者図書室)    |           |
| 教育ツール                    | 1,734,700 |
| 車いす                      | 22,100    |
| 病棟用備品(NICU用電動リカバリーチェアほか) | 211,200   |
| 外来用備品(小児科外来用ポータブルDVD)    | 28,600    |
| 赤い屋根まごころ基金報告書印刷費         | 87,120    |
| その他                      | 18,700    |
| (小計)                     | 3,046,626 |
| 遺贈金                      | 188,210   |
| (小計)                     | 188,210   |
| 合計                       | 3,234,836 |

【翌年度繰越金】 10,106,733  
(遺贈寄付金 9,811,790)

※ご寄付いただいた方※  
ご氏名の掲載は、承諾をいただいた方のみです(敬称略)

|        |        |        |       |
|--------|--------|--------|-------|
| 井上 小緒里 | 小西 キヨ子 | 蓮岡 篤子  | 正木 克子 |
| 井上 高行  | 竹田 賢一  | 馬場 睦子  | 正木 寛治 |
| 奥本 二三子 | 武田 修明  | 早川 由美子 | 矢野 裕典 |
| 梶谷 浩史  | 玉井 孝典  | 林 徳治   | 山本 昇  |
| 粒生 忠則  | 道満 和子  | 古田 徹   | 若松 正生 |
| 栗坂 勘一郎 | 長島 正行  | 細川 将司  |       |
| 小谷 雄亮  | 西山 石子  | 細川 美洋  |       |

株式会社いもうえ  
KCM 倉敷コミュニティメディア  
斎久工業株式会社 代表取締役社長 佐藤 政美  
高砂熱学工業株式会社  
株式会社中国銀行  
株式会社中電工  
株式会社トマト銀行  
株式会社藤木工務店  
横浜幸銀信用組合 倉敷支店 支店長 藤谷明仁

## 【赤い屋根まごころ基金について】

当法人は、創立当初より、地域の皆さまへの社会貢献を目的の第一と考えて医療を行っています。  
「赤い屋根まごころ基金」は、2004年12月の設立以来、皆さま方からのご厚志をお受けし、皆さまの病院としての活動をよりよくするために役立たせていただいています。基金の趣旨をご理解のうえ、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

### 基金の取り扱いについて

- 「赤い屋根まごころ基金」は、次のようなことに使わせていただきます。
  - ① 地域の皆さまの健康づくり、病気の予防など。
  - ② 明るく快適な病院環境にするための整備。
  - ③ 病院で行う臨床研究に対する支援。
  - ④ 職員の教育研修に対する支援。
  - ⑤ ボランティア活動に関する支援。
  - ⑥ ご寄付いただいた方のご要望事項。
- 「赤い屋根まごころ基金」は、「基金制度運営委員会」で運営いたします。
- 「赤い屋根まごころ基金」の活動内容(寄付金の受け入れ・使用状況など)については、ご寄付いただいた方をはじめ、広報いたします。
- 「赤い屋根まごころ基金」へのご寄付は、「すべての人に平等に」という創立者の精神に基づき、誤解を招きやすい入院予定・入院中の患者さん、ならびにそのご家族からの寄付はご遠慮いただいています。個人の方の当法人へのご寄付については、確定申告により所得税の優遇措置が受けられます。当法人または法人施設のホームページをご覧ください。下記事務局にお問い合わせください。

## 「赤い屋根まごころ基金」のご案内

基金事務局(086-422-0210 経理課)または入院会計窓口  
〒710-8602 倉敷市美和1丁目1番1号  
[https://www.kchnet.or.jp/oharahcf/kifu\\_akaiyane.aspx](https://www.kchnet.or.jp/oharahcf/kifu_akaiyane.aspx)



# 赤い屋根まごころ基金

ご厚志を、未来へつなげる



100年前に創立した倉敷中央病院が1927年に独立採算制へ移行してから、当法人は一民間医療機関として補助金や交付金に頼ることなく、収入の9割以上が保険診療による診療報酬を財源としております。

倉敷中央病院は2023年6月2日に創立100周年を迎えました。これから100年先に向け、質の高い医療を地域の皆さまに提供するため努力を重ねてまいります。質の高い医療の実現には継続した人材の育成や高度な医療機器が不可欠です。しかし、国の医療費抑制政策や、医療の高度化に伴う薬剤や医療機器の価格高騰で病院経営は厳しさを増しています。

地域の医療の質向上のため、誠に恐縮ではございますが、皆さま方にお力添えを賜りたく、お願い申し上げます。



公益財団法人  
大原記念倉敷中央医療機構